

アツミムシロ *Reticunassa* sp.

【選定理由】

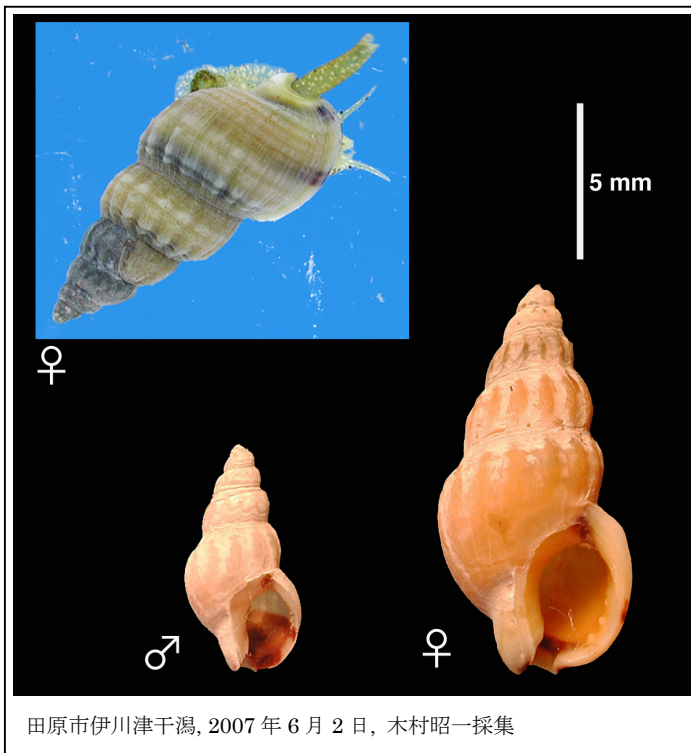
今までにアオモリムシロ *Reticunassa hypolia* (Pilsbry)、クロスジムシロ *Reticunassa fratercula* (Dunker)、ウネムシロは、全て同一種の亜種関係に位置付けられるなど分類が混乱していた(肥後・後藤, 1993; Higo *et al.*, 2001; 土屋, 2000)。しかし、花木・他 (2014) による各種のミトコンドリア DNA による解析の結果では、3 種は独立種である。また、花木・他 (2014) によると本種はアオモリムシロとの種内変異の可能性も示唆されたが、以下に示すように 1) 中間型が存在せず、明らかに形態的に区別されること、2) 本種には著しい性的二型があること、3) 生息環境が特殊で大きく異なること、等から別種として扱う。

県内で本種は、渥美半島三河湾側の海水が淡水と入り交じった状態で砂泥底干潟に滲み出ている特殊な生息環境の 1ヶ所で生息が確認されている。その付近の干潟には全く生息せず、特殊な環境に限定的に生息している。従って、本種の生息面積は著しく小さく生息基盤は非常に脆弱である。幸い生息地では健全な個体群が確認されているが、絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長は雌個体で約 10 mm、雄個体で約 5 mm と殻の大きさが著しく異なり性的二型が明らかである(図右)。螺塔は高く螺層は膨れ、縫合はくびれる。

殻はやや厚く、弱い縦肋があるが、螺肋は弱く殻表面はなめらか。殻口は丸く、内唇側には滑層が発達しない。



田原市伊川津干潟, 2007年6月2日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内では 1 地点しか生息地が確認されていない。生息地では幸い健全な個体群が認められた。

【世界及び国内の分布】

未同定種なので不明。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟を保全し、水質の富栄養化を防止することが必要である。

【特記事項】

本種は木村 (2012) で唯一の生息地がある渥美半島にちなんで和名が新称された。

【引用文献】

花木勇太・香取祥人・林 誠司・木村昭一, 2014. ミトコンドリア DNA によるクロスジムシロ種群の予察的系統解析. *Venus* 72 (1-4): 148.

木村昭一, 2012. アツミムシロ, p. 67. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

土屋光太郎, 2000. ムシロガイ科. in: 奥谷喬司(編). 日本近海産貝類図鑑. pp.218-224. 東海大学出版, 東京.

(木村昭一)